

世界農業遺産 大崎耕土

Globally Important Agricultural Heritage Systems Osaki Kōdo



持続可能な水田農業を支える 「大崎耕土」の伝統的水管理システム

Osaki kōdo's Traditional Water Management System for Sustainable Paddy Agriculture

大崎耕土（大崎地域）について

大崎耕土とは、2つの河川流域に広がる河川氾濫原を拓き、広域の水田農業地帯として発展してきた本地域の呼称です。約430年前、本地域の岩出山に居を構えた伊達政宗公の先見性を持った農業政策を背景として、豊饒の大地として発展してきました。

大崎耕土（大崎地域）
 (宮城県大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町 1市4町)
 面積*：約1,524 km² (152,381 ha)
 うち農地：362 km² (36,190 ha)
 森林：837 km² (83,684 ha)
 地域の農業生態学的分類：温帯水田農業地域
 地形的特徴：沖積低地
 気候区分：温帯湿潤気候
 人口*：190,999人
 地域の主な生産源：農業、林業、商工業

*令和5年3月時点

首都圏等からのアクセス

- ① 鉄道（東京駅ー古川駅） JR 東北新幹線：約2時間
- ② 鉄道（仙台駅ー古川駅） JR 東北新幹線：15分
JR 在来線：1時間10分
- ③ 鉄道（仙台空港駅ー古川駅）
JR 在来線：1時間40分

大崎地域世界農業遺産推進協議会

事務局：大崎市産業経済部農政企画課世界農業遺産未来戦略室
 電話：0229-23-2281
 E-mail: osaki-giahs@city.osaki.miyagi.jp

- 色麻町 産業振興課 電話：0229-65-2128
- 加美町 産業振興課 電話：0229-63-3408
- 涌谷町 農林振興課 電話：0229-25-8511
- 美里町 産業振興課 電話：0229-25-3329



未来へつなぐ「生きた遺産」

世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

持続可能な水田農業を支える 「大崎耕土」の伝統的水管理システム

Osaki Kodo's Traditional Water Management System
for Sustainable Paddy Agriculture

世界農業遺産に認定された「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」は、「やませ」による冷害や洪水、湯水が頻発する厳しい自然条件の中、農業用水の確保や栽培技術、排水対策など、農業農村の営みのあらゆる場面で水を巧みに管理する様々な知恵や工夫、数多くの苦労を重ねながら、米づくりを中心とした水田農業により「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。

この伝統的で巧みな水管理によって支えられる水田農業の営みは、水田と水路、ため池、農家の暮らしを支える屋敷林「居久根（いぐね）」とともに、水田の持つ豊かな湿地生態系や農文化も育んでおり、「生きた遺産」として未来に伝えたい、素晴らしい農業システムです。



農業を支える巧みな水管理システム

「やませ」による冷害や洪水、湯水が頻発する三重苦の自然条件で、社会組織「契約講」を基盤とした農家主体の水管理体制によって巧みな水管理がなされてきました。



農業と結びついた伝統的な農文化

水源地である奥羽山脈の山々に対する民間信仰、豊穡への祈りや感謝を表す農耕儀礼・民俗芸能、餅食や発酵食などの多彩な郷土食を生み出し、農文化が花開きました。



生物多様性を育む農業

巧みな水管理は、水田の持つ湿地生態系を支える生きものの多様性の保全に貢献しています。また、湿地生態系は水稻の害虫抑制に機能し、自然と共生する農業が実現しています。



希少生物の生息を支える活動

地域住民が主体となって希少生物が棲むため池の外来魚の駆除と水環境の保全を行うとともに、その生きものの生息を育む用水の水質認証による米のブランド化などを行っています。



ランドスケープ

生活の知恵が詰まった屋敷林「居久根」は、農家の暮らしに寄り添ってきました。大崎耕土はこのような居久根と水田、水路が織りなす独特の農村景観が形作られています。

表紙撮影：大友良三



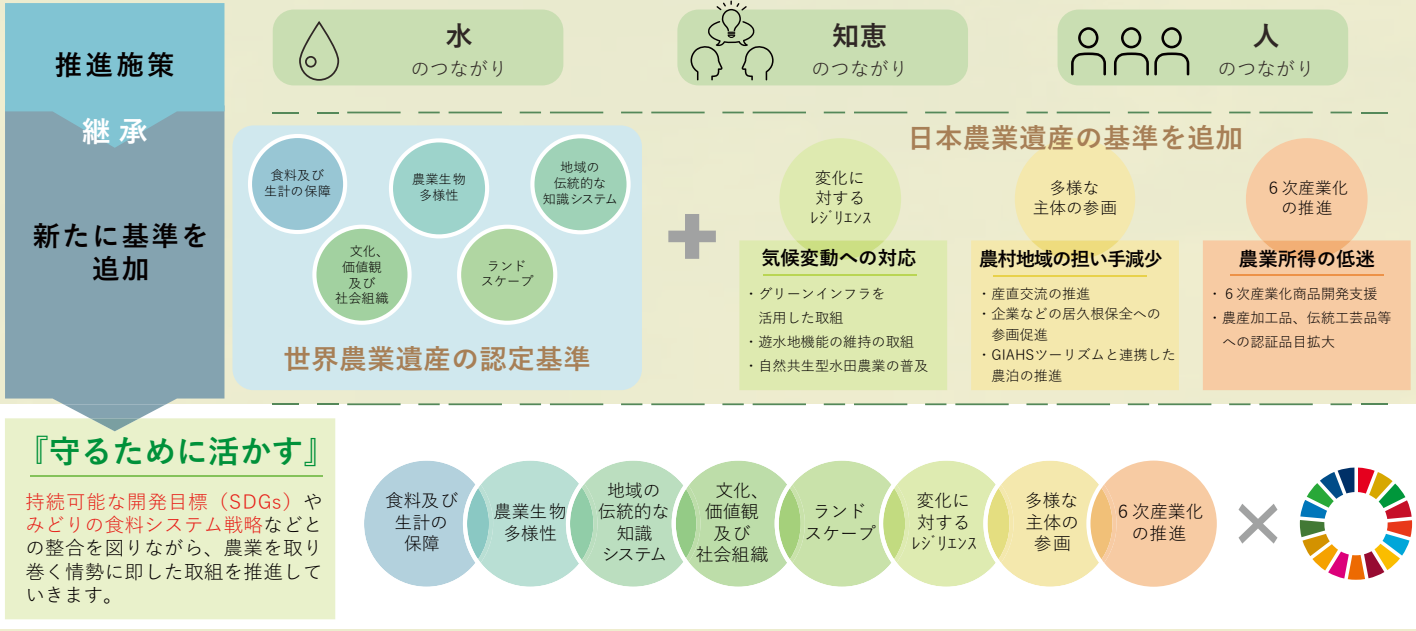
農業システムを継承する取組

農業システムを将来につなげるため、自然と共生する農業によるブランド化や発酵技術を活かした6次産業化、産直交流、次世代育成プログラムが行われています。

「生きた遺産」として次世代へ

大崎地域では、世界農業遺産の認定を契機として、農業者だけではなく、多くの市民や地元企業、消費者団体などの多様な主体が参画する仕組みを構築するため、世界・日本農業遺産（アクションプラン）を策定しています。

世界・日本農業遺産保全計画（第2期）概要



Globally Important Agricultural Heritage Systems 世界農業遺産【GIAHS】とは

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、ランドスケープ、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産システムを国連食糧農業機関 (FAO) が認定する仕組みです。



FAO: Food and Agriculture Organization of the United Nations

世界農業遺産認定地域

大崎地域を含め、世界で24カ国78地域、日本では15地域が認定されています。(2023年7月現在)



田植え体験



伝統的な技法による味噌



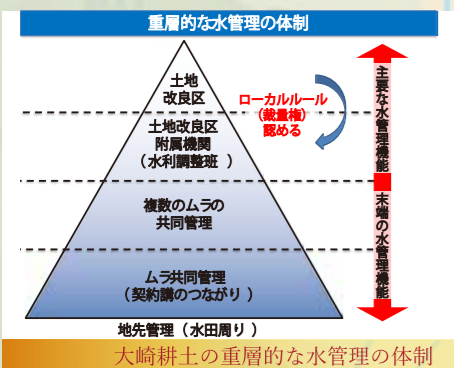
農耕儀礼「切込の裸セドリ」



外来魚の駆除（ため池干し）



山間部で370年続く水管理

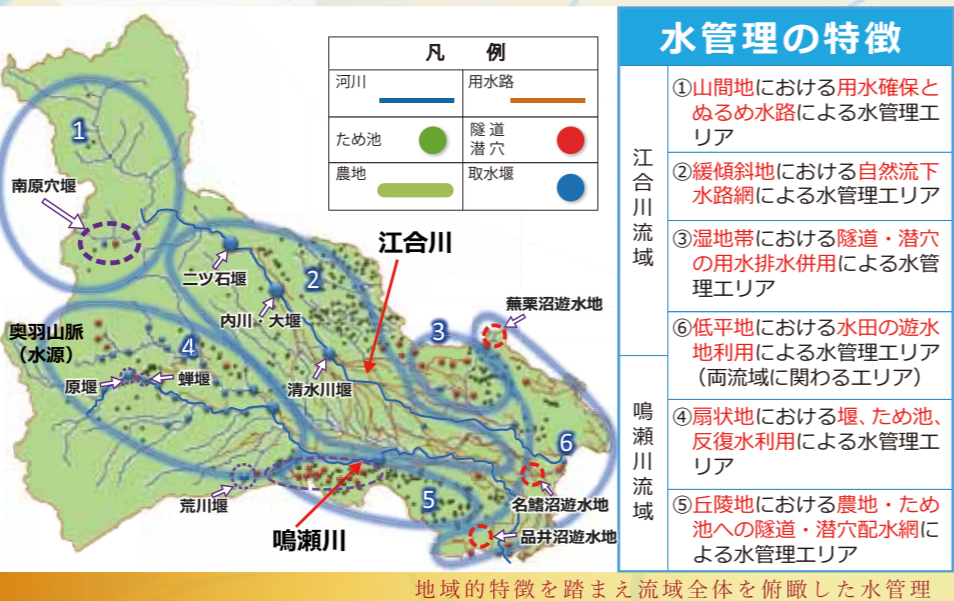


巧みで重層的な水管理

大崎耕土の水田農業は、先人の知恵の軌跡とも言える1,250カ所に及ぶ取水堰（しゅすいぜき）、隧道・潜穴（ずいどう・せんけつ）、ため池、用排水路など流域全体に広がる水管理基盤と、地域内に約760組織が現存*する社会組織「契約講（けいやくこう）」を基層とする水管理体制が支えています。

これら水管理の基盤と体制によって上流から下流まで地域の特徴を踏まえた6つのエリアの水管理システムが機能することで、流域全体で持続可能な水田農業を継承してきました。

*認定申請時点



農業と結びついた伝統的な農文化

大崎耕土では、初夏に太平洋から吹き込む冷たく湿った季節風「やませ」による冷害と洪水、湯水などの気象災害が頻発する厳しい自然条件を生き抜く人々の精神的支えであり、人と知恵をつなぐ役割を果たすものとして豊穡への祈りと感謝、そして水の恵みをもたらす山々の信仰などの農文化が発展してきました。

また、暮らしの安定と食糧の供給を担うため、寺院での種もみ交換などの儀礼を通じて、地域の気候にあった種子を選定することで、生産の安定を図って日々の生計を維持し、日本を代表する穀倉地帯「大崎耕土」を継承してきました。

また、日々の厳しい農作業の中で、46種類に及ぶもち料理や酒、味噌、醤油という発酵食などの多様な食文化が生まれました。



豊作を祈る雪中田植え



豊かな水の恵みを祈る水神信仰



田の神信仰

水田と水路、ため池、屋敷林「居久根」が織りなす豊かな農村景観（ランドスケープ）

大崎耕土の水田農業と伝統的な水管理は、水田と水路、ため池、そして屋敷林「居久根（いぐね）」がつながる機能的で、美しい農村景観（ランドスケープ）を形成してきました。

特に居久根は、農家が水田の広まりとともに生活の拠点を広げる上で大切な、営農と自給自足的な生活の拠点であり、多くの知恵が詰め込まれています。

| 減災の知恵 | 自給の知恵 | 営農の知恵 |
|------------------|-------------------|---|
| 洪水や冬の北西風から家屋敷を守る | 敷地内で身近な野菜や薬草などを栽培 | きめ細やかな水管理、農作業に適した立地、周辺水田と一体となり、水稲害虫の土着天敵を育む |



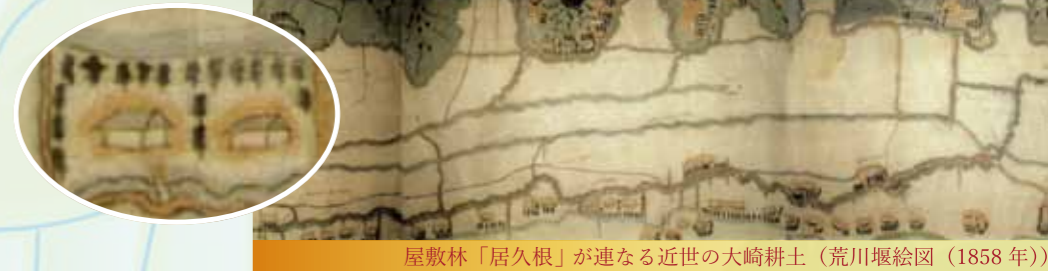
歴史ある用水路「内川」



ふゆみずたんぼ



大崎耕土の農村景観（ランドスケープ）



屋敷林「居久根」が連なる近世の大崎耕土（荒川堰絵図（1858年））

生物多様性を育む持続可能な水田農業



伝統的な水管理システムが支える水田農業は、多様な生きものと共生関係にあります。大崎耕土では、害虫の天敵となるクモやカエルなどの生きものに配慮した有機栽培米や環境保全米の栽培を通じて害虫被害の軽減が試みられています。

また、10万羽を超えるマガンが餌をついばむ農地が広がる越冬地として重要な役割を果たしています。

さらに、天敵を含む多くの生きものにとって、多様な樹種で構成され、大崎耕土に点在する屋敷林「居久根（いぐね）」は、豊かな生物多様性を支える大切な基盤となっています。

強い季節風

かこい

にわ

母屋

にわ

むかえ

水路

水路

北

東

南

西

ナナンテン（木本）
・咳止め、食あたりの緩和
・扁桃腺炎、口内炎の緩和

カキドオシ（草本）
・利尿、消炎、咳止め、解毒作用

「かこい」の木々は高木から低木まで多種・密集
○風上となる北西は厚く仕立てる
○実のなる植物や薬草などもある
○身近な野菜の栽培・冬期の土中保存

オツネトンボ

日々の野菜を栽培

シュレーゲルアオガエル

土中保存

屋敷林「居久根」の機能

持続可能な水田農業を支える 「大崎耕土」の伝統的水管理システム

巧みな水管理基盤

— 契約講を基層とした水管理 —

運用・調整



洪水の調整

水資源の配分調整



渇水時の「番水」や用水の「反復水利用」などを可能とする農家主体の配分調整

遊水地による しなやかな水管理



水田を組み合わせた遊水地を設け、周辺の浸水被害を軽減

伝統的な水管理

「やませ」を克服する栽培技術



被害軽減

安定供給

生きものの
豊かな環境

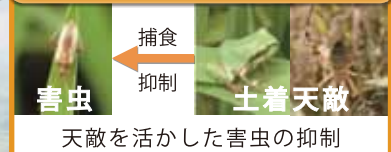
害虫の抑制

屋敷林「居久根」



複層的な樹種で構成され、「水田に浮かぶ森」として、カエルや鳥類などの生息場所を提供

生物多様性と農業の 共生関係



天敵を活かした害虫の抑制

持続可能な水田農業

食料と生計を支える農業生産



マガンの越冬を支え続ける水田農業

水田地帯に
暮らす知恵

自然共生による
価値化

大崎耕土が育むランドスケープと伝統文化、継承への取り組み

水田農業が育む 伝統的な農文化



水田農業の営みが生み出すランドスケープ



農業システムを 継承する取組

